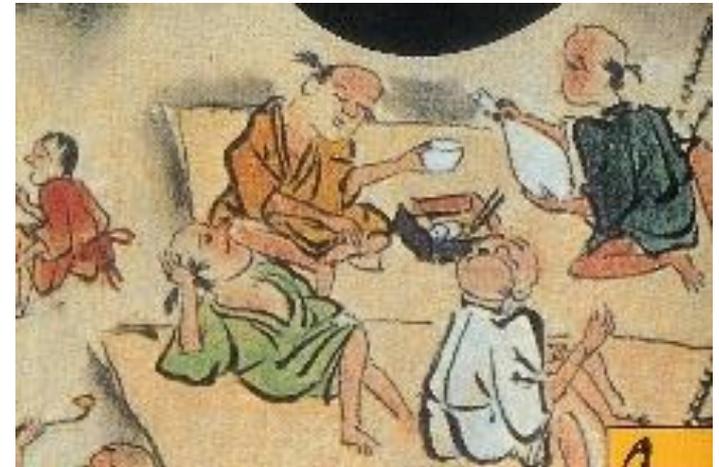


第8回 Everyday Things



『農業図絵』江戸時代

第7回Family & Gender事後課題

(教室23 + Plone38 = 61)

① 経済力(収入)と結婚・出産の相関関係(マルサス) → なっとく

② 近世ヨーロッパ型(晩婚、独立世帯) → 現代日本に近似 = 近代家族、しかし出産や子育ては女性側の負担大 → どうしよう?!

↑ マルサスはヨーロッパ近代モデル ≠ 中国

③ デートの約束をやぶっても処罰されないが、結婚の約束を破ると処罰される = 結婚は財産権に係る法制度

近代家族

- 現代の日本における結婚に注目してみると、それはすなわち、近代的な「家族」を再生産するための前提条件であるように思う。婚姻届を提出して法的に公認された夫婦となって実子を育み、次世代をつくりだすといった流れの、産業革命もしくは明治維新期の慣習を存続させているのではないだろうか。しかし、たとえばフランスではPACS制が導入され、同性婚を認める国々が増えるなど、結婚形態は多様化している。にもかかわらず、日本は異性愛の結婚と姓の統一（ほとんどは女性が男性の姓に改姓）に固執しているように感じる。さらに、届け出婚より事実婚のほうが不利になることや、非嫡出子への差別が依然としてあること、同性愛者による結婚が認められていないなど、日本の結婚形態は法によって縛られたものである。
- 結婚とは、本来、男女（同性も）が自由意思によって結ばれるものではないのだろうか。もっといろんな形態があってもいいと思う。また、個人の自由意志として結婚がなされるようになった現代においては、結婚をするもしないも自由なのだから、結婚<という制度>の存在自体が問い直されていると思う。（kさん）

あるべき姿？

出産できない女性を悲観したり、同情したりする男性や、出産できる女性の胸の内には、「出産できる女性こそ、女性としてあるべき姿」という差別にも似た考えが潜んでいるのではないかと思いました。もちろん、自分も将来子供をもちたいと思うが、女性として生きていくうえで、いったいどのような人々が社会の中で「女性」と位置付けられてきたのかについて、もう少し考えてみたいと思います。(Nさん)

結婚：通過儀礼か岐路か

- 昔、結婚が親の意思や自分のためというよりも周囲のためであったので対し、今は結婚は自分で選んでするものになっている。つまり、選択肢のひとつとして結婚があるということだ。
- 昔は、通過点にすぎなかったように思う。人生はあくまで一本道で、結婚というハードル(障害物)のようなものがその道のどこにあるか、だけであったように感じる。結婚をしない場合でも、それは人生の終着点に至るまでにその、障害物にぶつからなかっただけで、結婚する、しないという分岐点があるわけではない。それ故に、結婚の前と後の人生が「結婚」の有無によって変わるのではなく、「結婚」という障害物自体の高さや太さ、大きさによって左右されていたように思う。
- それに対し、現代では、結婚をしない人生と結婚する人生が、きっぱりと分かれており、結婚がひとつの分かれ道になっている気がする。それ故に、結婚する場合としない場合の利点と欠点を考えて天秤にかけ人が続出しているのだと思う。(N さん)
←いまは、実利的すぎる(Sさん)

お互いに縛りあうこと

結婚する理由は自身の利益のためであると思う。

「相手が幸せにしてくれそうだったから」とか「収入が良かった」等と言った理由で結婚するのもかもしれないが、もとをたどれば互いを所有しあう権利があることを承認し契約するのが結婚なのではないか。

所有しあうことで発生する、仕事の分担等の役割が利益となるのが結婚のメリットであろう。

実際ここまで考えて結婚するわけではないだろうが。両親がそろっている家庭で育ち、両親という存在を間近で見続けた結果、大人になったら結婚して子供を生み、育てるものだという刷りこみも大いにあると思う。

それを、そのような人生でもいいと考えるか、それとも自分はシングルが良いと考えるかは、生きている社会さえ選択を許しているのであれば、判断は自分自身にゆだねられる。

個人主義なのかもしれないが、シングルの人でも既婚の人でも両方いるからこそ、将来の子孫にも同じ選択肢が与えられるのであると思う。(Y さん)

精神的メリットは、もちろん潜在的に感じる安心感もあると思いますが、結婚して幸せな家庭を持つことが良しとされる社会の流れにも影響されているように思えます。安心感を得るだけが目的なら、結婚という制度はいりませんから。でも、独占欲を満たし、共に過ごすことを半ば義務化するという意味での安心感もあるかなとも思いますが (E さん)

結婚観も変化する

「個人の選択肢が全てシングル思考になって人類が滅亡したらどうするのか」と考えてみましたが、おそらく何かしらの病原体や自然現象、戦争や科学技術によって悲惨な事件が起こらない限り、人類は滅亡しないような気がします。マルサスの人口論のように、時代の流れに伴って自然に人間の心は変化し、結婚・出産率も社会の変化に伴って変化すると思うのです。今回の東日本大震災が起きた後、日本全国で結婚しよう、家族を持つよう考えるようになった人が急激に増えたというニュースで聞いたことがあります。過去や現在に関係なく、人類史的にも大きなターニングポイントになるような事件、小さく言えば個人的に人生に影響を及ぼすような事件の出現に対して、人間は自然に人口を調整して行くのだと思います。

(Aさん)

↑親、親戚、友人の影響(結婚観、家族観)

「多様な生き方が認められるようになってきた今の社会では、自分がBESTと思える人生を選択すれば、結婚や出産のしなくてもいいのではないか」(Mさん)

Capitalism and the Industrial Revolution : Europe and the world, 1750-1900

Susan B. Hanley, *From Everyday Things in
Premodern Japan*, Berkeley, 1997.

Q1 岩倉使節団は、日本とヨーロッパの違いはどこにあると述べているか？ (p.265)

Q2 著者Hanleyは、19世紀中葉の日本とヨーロッパをどのような点から比較しようとしているのか？

日本とヨーロッパ

Europe

Industrial Revolution(265)

Technology: train,
telegraph, electricity,
steam power

Tokugawa Japan

Unchanging (265)

Backward

Physical well-being

Enclosed room(266)

Sliding doors

Cotton cloths

Bath

Portable heater

産業革命 力織機

- エドモンド・カートライト^[1](Edmund Cartwright, [1743年4月24日](#) - [1823年10月30日](#))はイギリスの牧師、実業家、発明家。特に自動織機(力織機)の開発で名高く、イギリスの産業革命に貢献した。
- イギリスのノッティンガムの旧家の家柄に生まれる。オックスフォード大学を卒業。以後40代頃まで牧師を生業とする。1784年にリチャード・アークライトの水紡機の特許が失効し、マンチェスターに綿糸が多く出回った。それに伴い力織機が不足したためカートライトは力織機を作製しはじめ、翌年に力織機の基本特許を取得し、それに伴ってドンカスターとマンチェスターに工場を設立したが後者は1792年に焼き打ちで焼失した。年を重ねるごとに力織機の新しい特許を取得し力織機以外にも1789年に梳毛機、1792年にロープ製造機、1797年にアルコール機関を発明した



ジェームズ・ワット (英: James Watt, [FRS](#), [FRSE](#), [1736年1月19日 - 1819年8月25日](#)) [スコットランド](#)の発明家、エンジニアであり、[トーマス・ニューコメン](#)の[蒸気機関\(en\)](#)へ施した改良を通じてイギリスのみならず世界中で[産業革命](#)の推進に貢献した。

- [グラスゴー大学](#)で機械工作の仕事に従事していた頃、ワットは蒸気機関技術に興味を覚えた。そこで、当時の機関設計では[シリンダー](#)が冷却と加熱を繰り返しているため[エネルギー](#)を大量に無駄にしていることに気づいた。彼は機関設計を強化し、凝縮器を分離することでエネルギーロスを低減し、基本的な出力の向上を図ることで蒸気機関の効率や費用対効果を高めた。
- ワットはこの新しい蒸気機関の商品化を試みたが、1775年に[マシュー・ボルトン](#)という協力者を得るまでは資金面で大変苦労した。新会社[ボルトン・アンド・ワット](#)社は最終的に大成功を取め、ワットは資産家になった。引退後もワットは発明を続けたが、蒸気機関ほど影響を及ぼすようなものは完成できなかった。彼の栄誉を称え、[国際単位系\(SI\)](#)における仕事率の単位には「[ワット](#)」という名称がつけられた。
- ウィキペディアより

蒸気機関

Steam Engine



ロンドンの労働者住宅(1870年代) 汽車、煉瓦住宅の中庭、



江戸時代の生活

Q3 荻生徂徠は、当時の生活状態をどのように述べているか？(p. 268)

Mosquito netting

Eating miso

Drinking sake

Wearing store-bought clothes

Instead of hemp, millet, grass, brushwood

Samurai-zation

婚礼の宴の支度 (川原慶賀画、1825-29)



オランダ国立民族学博物館、ライデン

農民と商人

(川原慶賀
画、Siebolt,
Nippon,
1833)



Q4 産業革命の新技術
はなにか？それは、な
にをもたらしたか？(p.
267-8)

Telegraph /train, ship

Furniture

Soap

Bath/daily for upper, once
a week for the middle

No public bath

Slum(267-8) in industrial
cities; drinking water,

Dunghill, human waste
vermin

Q5 生活文化の点で、徳川時代の日本がヨーロッパより勝っていたのはどのようなところか？ 3つあげよ。(p. 267-8)

Well-being
Housing (266)
Bathing(267)
Water supply, sewage (270)
Clothes

Q6 当時の食生活を比較すると、日欧のどちらが勝っていたか？ (p. 268-9)

Food:
Europe: starchy, fat:
afternoon tea, sugar, beer,
tabacco, fresh milk,
One-pot meal, *kamado*
Worse or better
Average(major) people in E got
worse, lowered quality of
life(270)

Q7 19世紀日本の平均寿命について、A.Jannetta & S. Prestonと著者の意見の違いはどこにあるのか？

“Two Centuries of Mortality Change in Central Japan: The Evidence from a Temple Death Registers”
Population Studies,
45(1991)



Ogen-ji 往還寺(岐阜県高山市、宮村)

M:46.1 F:42.1

応仁の乱の頃、宮村在住の武士が世の無常を感じた。折から越前吉崎に、本願寺八世蓮如上人が滞在であったので赴き、門弟となって西方坊善正という法名と、六字名号本尊を頂いた。文明五年(1473)七月、故郷に戻り道場を開いたと伝える。

過去帳 1771-1969年、2万人の死亡録

Fujito (藤戸) 岡山県

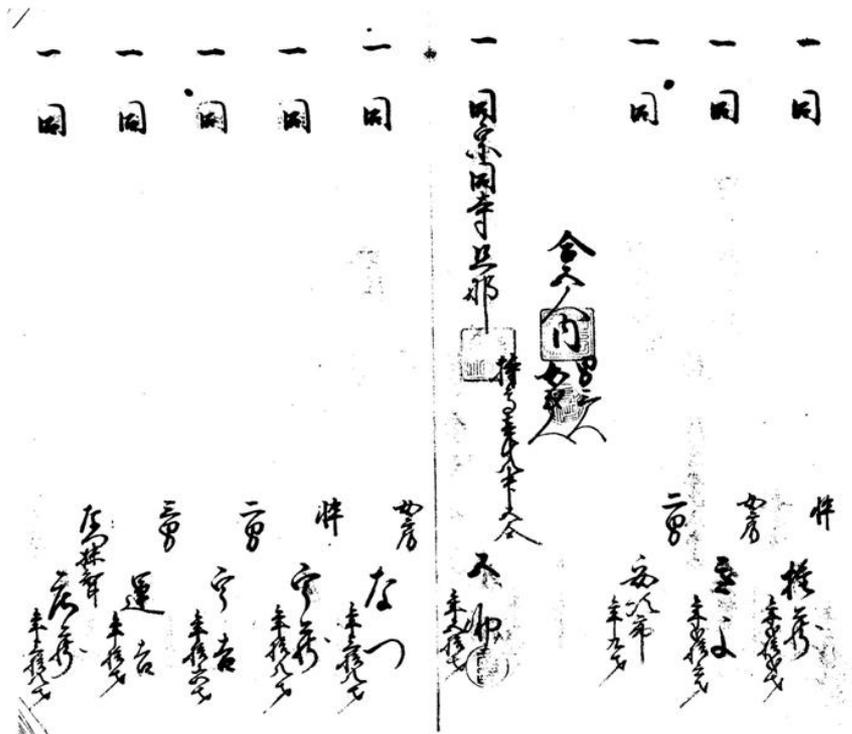
M:43.6 F:40.9

宗門人別改帳

寛文5年(1665年)に幕府が諸藩にも宗門改帳の作成を命じると、人別帳に宗旨を記述するという形で宗門改帳が作成されるようになり、これが宗門人別改帳となる。寛文11年(1671年)に幕府はこれを法的に整備し、宗門人別改として定期的に調査を行うように義務付ける。後年になるとキリシタン摘発の激減もあって、宗門人別改帳は戸籍原簿や租税台帳の側面を強く持つようになっていく。

改帳の作成は、町村毎に名主や庄屋、町年寄が毎年行うこととされていたが、後に数年置きとなった地域もある。改帳には、家族単位の氏名と年齢、檀徒として属する寺院名などが記載されており、事実上の戸籍として機能していた。婚姻や丁稚奉公などで土地を離れる際には寺請証文を起し、移転先で新たな改帳へ記載することとされた。こうした手続きをせずに移動(逃散や逃亡など)をすると、改帳の記載から漏れて帳外れ(無宿)扱いになり、不利益を被ることになる。

ウィキペディアより



天保5年

日本の歴史人口学

1600年 1227万 寿命30歳

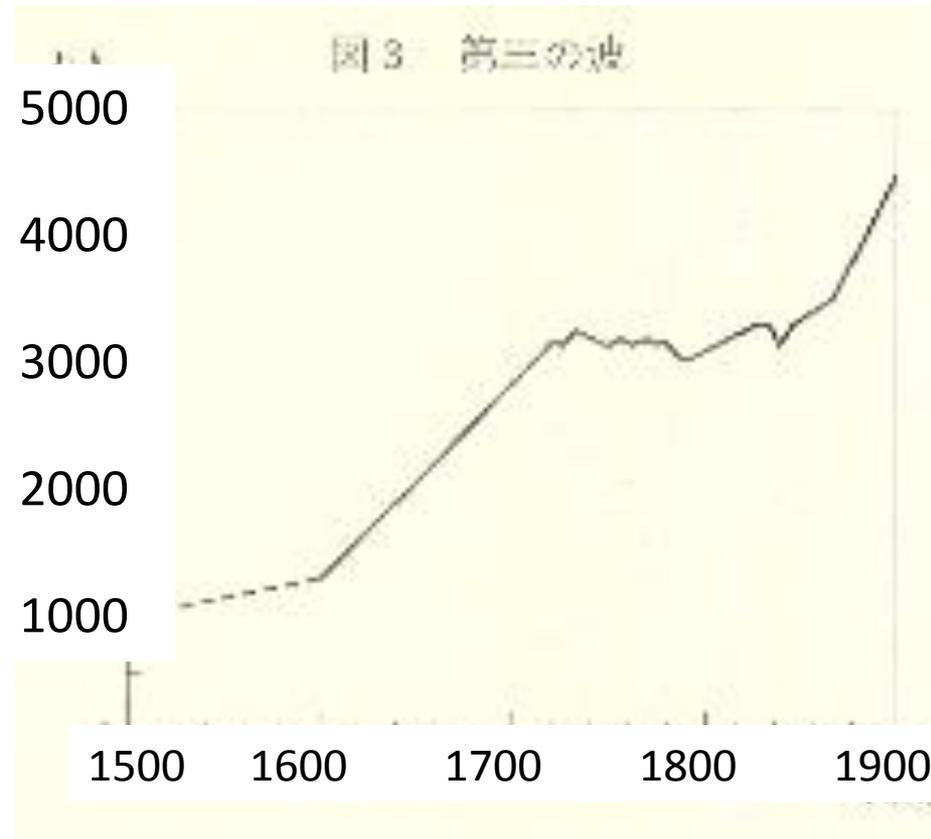
1721年 2605万

1846年 2684万

出生率 5.69人(8地域平均)

結婚と出産(18世紀信濃湯舟沢村)結婚年齢男28.4、女20.8、第一子妻23.8歳、再頻出生数5人、最終出生年齢25-48歳、出生間隔4.1年

図3 第三の世



鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』
講談社学術文庫、2000年

Q8 ヨーロッパに起こった産業革命は、歴史的にはどのように評価すべきなのだろうか？

事後課題Everyday Things

- ①この論文を批判的に検討しよう(事実、推論、結論など、疑ってみよう)
- ②日常生活に着目すると、歴史や世界はどのように(違って)みえてくるか？

どちらかについて、自由に書いてください。